

## 6年組 国語科学習指導案

日時 平成17年11月16日(水)

第2時限目

場所 6年組教室

授業者 高垣 敦子

1、単元名 言葉っておもしろいな

2、教材名 「わたしたちの言葉」

3、指導の立場

(1) 単元(教材)について

学習指導要領では5,6年生における「話すこと 聞くこと」の内容を

### 目標

目的や意図に応じ、考えたことや伝えたいことなどを的確にはなすことや相手の意図をつかみながら聞くことができるようにするとともに、計画的に話し合おうとする態度を育てる。

### 内容

話すこと・聞くこと的能力を育てるため、次の事項について指導する。

ア 考えたことや自分の意図がわかるように話の組み立てを工夫しながら、目的に応じた適切な言葉遣いで話すこと。

イ 話し手の意図を考えながら話の内容を聞くこと。

ウ 自分の立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うこと。

と記してある。

わたしたちは日常生活の中で、多くの場合言葉を使って人とのコミュニケーションをとっている。しかし、その言葉の意味について改めて考えたり、使い方の正誤について考えたりする機会は多くはない。また、言葉自体がもたらす人間関係に対しての影響について考えたりすることもあまりない。

この教材は、「言葉」というものをクローズアップさせながら、実は言葉にはあいさつなど人をつなぐ大切な役割があり、人間関係を築いていく上で深く働きをもっているものだということに気づかせてくれる。大きな行事をいくつも経験してきた彼らは、その行事一つをとっても自分たちの力だけではできず、多くの人の手によって支えられていることを学んできた。卒業まで、数ヶ月となった今、小学校生活を振り返ったりこれから新しい人間関係の中へ身を投げたりする上で、人に対して感謝をする気持ちや、尊敬したり敬ったりする気持ちを再認識させるのに大変適した教材である。

また、この教材文は言葉の多義性や助詞の使い分けなどを例にして、言葉の面白さ・難しさを考えさせ、言葉に注意して使っていくことに気づかせる教材文でもある。さらに「あいさつ」を取り上げ、あいさつの言葉には外国語も日本語も相手を思いやる気持ちが込められていることが述べられている。ここから、自分自身の生活を振り返って、言葉に込められた、また言葉から感じた「思い」について考えさせる。これによって、言葉の持つ力を感じ、言葉を通して人とつながる人間の生き方を考えさせることができるものと思う。

## (2) 児童の実態

児童数 名(男児 名女子 名)の学級である。

話すことに関しては、あまり積極的でない学級である。内容的にも答えがはっきりしているものや確実なものに関しては話そうとできるのだが、自分の考えを人に伝えようとしたり、人の考えを憶測したり、根拠を考えたりする場面では、積極的に話そうとする子が少ない。授業などでは挙手発言する児童が女子の3～4名に限られていることが多かったため、キャンペーン期間を組み挙手への意識化を図ってきた。また、ノートに考えを書いたときには赤ペンで波線を引いたり花丸印をつけたりして、それを発表させるようにしてきた。その結果、少しずつ挙手発言に対する意欲や自信が高まってきている。

また、朝の会を利用して「1分間スピーチ」を行っている。これは、日頃ニュースや新聞記事などの中で心に留まったものをクラスのみんなに話すものである。出来事の概要と事実、それに対する自分の考えや意見を言うように指導している。地震のニュースであれば「かわいそうでした。」程度の感想しか話せない児童もいるが、中には「地震は自然に起こるものだから防ぎようがないけれど、日頃から地震が起きたらどうするかを話し合っておくことが大事だと思う。」といったことまで話せる児童もいる。

指導内容Aについては、意識をすれば順序を考えられるが、普段の会話の中では、言いたいことが先行して状況を伝えずに話してしまうような場合も多々ある。前述の「1分間スピーチ」の際にも、出来事の実事やそれに対する自分の考えについても一文で話してしまふこともあり、場に応じて、補助的な発問をしながらスピーチを援助することもある。「考え」を述べることにに関して消極的であると述べたが、実はその事実にきちんと向き合っていなかったり、深く考えていなかったりすることも考えられるため、考えをまとめる時間を確保するように心がけてきている。目的に応じた適切な言葉遣いということに関しては授業の中であれば、意識されていることが多い。イについては話し手の話の概要をつかむことはできているが、細かい内容や相手の意図まで考えて聞ける児童は少ない。ウについては、話し手が考えを言う前に教師の方で、「自分の考えと比べてね。」などの助言をすれば比べようとして聞けるのであるが、日常的には賛成か反対かといった白黒がはっきりしているものでないと分かりづらく「ここまでは似ているけど、この部分がちがう」というような細かい部分まで聞けていない場面が多い。

## (3) 指導について

言葉の多義性や助詞の働きなどを教材文を通して扱うことにより、言葉の「伝達」という働きに目を向けさせ、それに付随する思いの違いを考えるようにし課題化までを自然な形で持っていく。その上で、自分の生活とかかわりを持っている言葉を想起しやすいようにする。

また、順序や話の中心に気を付けさせながら、相手に分かりやすいように話そうとすることや、意図がはっきり伝わるように、事実と感想、意見との組み立てや例示を効果的に工夫することなどを考えさせていきたい。その際には、話し方のパターンとして、オーソドックスに概要・事実・自分の考えの順で話すもの、ドラマティックに経験談・事実・自分の考えの順で話すもの、説明重視で事実・説明・経験談の順ではなすものなど三種類を明示しておく。そこでは、教師によるモデルスピーチも取り入れ、児童がどんな姿を目指していけばよいのかをはっきりさせていきたい。

#### (4) 研究テーマに関わって

研究主題 「意欲をもち、相手に伝わるように、自分の思いや考えを表現する能力の育成」  
～話す・聞く領域を中心とした国語科学習～

##### 研究内容1 「単元作りの工夫」

子どもの実態と指導内容を踏まえ、評価規準を位置付けた単元指導計画を作成する。

子どもの実態を考え、本来「書く」領域が7割ある本教材を「話す・聞く」力をつけられるような単元指導計画を作成した。また、一時間ごとに何ができればよいのかという評価規準を明確にした。

子どもにとってより目的意識をもった学習課題を設定する方法を具体化する。

常に単元を通してどんな力をつけていくのかということ意識させる。また、本時では「人に分かりやすいスピーチ」というものがどういうものであるかをはっきりさせることで、必然的に学習課題が考えられるように仕組んでいきたい。

##### 研究内容2 「学習活動と指導援助の工夫」

付けたい力と子どもの実態に応じた学習形態を工夫する。

すでに雲泥の差のある「話すこと」に関して一斉に指導をしていくことは大変難しいことである。本単元の後半では、自分が伝えたいことを大切にしていく。本時では、グループ内でのペア交流をし、その後自分で考える時間をとる。さらにその後フリーで交流し自分のスピーチの組み立てを決定していく形態とした。このような学習の形態を工夫することで、話すことの必然性が生まれてくるのではないかと考える。

子どものつまづきに応じた指導・援助を具体化する。

毎時間の児童のノートを点検し、その日の課題に対してどのように考えているかをチェックしていく。さらに机列表を利用して、付けたい力を明確にしていく。また、考えられるつまづきに対してどのような手だてを打てばよいのかを、考えておく。

##### 研究内容3 「仲間のよさや自己の高まりに気づく評価のあり方」

自己評価の場と方法のあり方を具体化する。

仲間の学びの良さに気づく相互評価のあり方を具体化する。

本時、自分のスピーチの組み立て方がよかったかどうかを仲間に聞いてもらうことが自分への評価にもつながるため、聞く側もなにを聞けばよいのかという観点をはっきりさせておく。

### 3、単元の目標

- 自分の考え方を変えたり、心を育てたりした言葉について考え、自分の思いを仲間に伝えることができる。

#### 4、単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
言葉に意識を向け、自分の生活と言葉の働きについて考え、書いたり話したりしようとしている。	意図が伝わるように具体例を挙げながら話したり、話し手の意図を考えながら聞いたりしている。	多義語の使い方や助詞の使い分けを辞書を使って調べたり、例文を考えたりして理解している。

#### 5、単元の5つの言語意識

相手意識	目的意識	場面・状況意識	方法意識	評価意識
クラスの仲間に	自分の選んだ言葉を伝えるために	卒業に向けての自信となるように仲間の前で	スピーチメモを手がかりにして	話し手・聞き手の意図を分かって

6、単元指導計画

時	ねらい	学習活動	評価規準・評価方法	指導・援助
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の経験を思い出し、言葉に意識を向け、考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「わたしたちの言葉」を読んで、言葉の使い方について関心を持つ。また、言葉について自分の考えをまとめ、単元の見通しを持つことができる。</li> <li>言葉の難しさ・面白さを感じた経験を思い出す。(同音異義語、漢字の使い分け、送り仮名、字や言葉の由来)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>範読を聞いて、「言葉の使い方」に関心を持ち、難しい、よく分からなかったという経験を、書いたり話したりしている。文章から、面白いと思った言葉の働きを書いたり話したりしている。</li> <li>ノートや発言</li> </ul>	<p>つまずき 言葉についての考えが浮かんでこない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループ交流</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉の多義性から意味がいく通りか考えられる文に触れ、言葉の面白さや難しさに気付くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材文の課題から、言葉の面白さ、難しさを考える。</li> <li>「おかしい」を違う言葉で言い換えたり、文を作ったりして、言葉の多義性を確かめる。</li> <li>例示されている言葉の意味を辞書で調べ、その例文を作っているいろいろな意味をもつことを理解する。</li> <li>他にも言葉が面白いなと思った経験はないか考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉の多義性に気付き、進んで調べたり例を考えたりしている。</li> <li>同音異義語やことわざ漢字の由来など、言葉で面白いと思ったことを見つけている。</li> <li>ノートや態度</li> </ul>	<p>つまずき 言葉の意味が分からない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国語辞典の引き方の確認。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>付属語である助詞も、その使い方と文と合わなかったり、意味が変わったりすることが分かり、言葉の面白さや難しさに気付くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材文の課題から、言葉の面白さ、難しさを考える。</li> <li>「に」と「で」を使った文を考え、助詞の使い方についてきまりがあることが分かる。</li> <li>例示されている文をもとに、文作りを行い、助詞が違っていると意味も違ってくことに気付く。</li> <li>難しいと思った言葉の使い方を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>助詞の違いによって意味が微妙に違ってくことが分かり、適する例文を書いている。</li> <li>漢字の使い分け、敬語の使い方、送り仮名で迷ったことなど、自分の経験から思い起こしている。</li> <li>ノートや発言</li> <li>.</li> </ul>	<p>つまずき 自分の経験が思い起こせない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループ交流</li> </ul>

4	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語のあいさつ言葉も、言葉自体に意味があるのではなく、人との関わりにおいて使われ、人と人をつなぐ言葉になるということに気付かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材文の課題から、言葉の面白さ、難しさ、すばらしさを話し合う。</li> <li>別れのあいさつの言葉を集め、あいさつに込められた気持ちを話し合う。</li> <li>いろいろな生活の場面でのあいさつの言葉を集め、意味を調べ、分かったことを話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>あいさつ言葉を調べて意味や役割を考えている。</li> <li>話し合いによって、人と人をつなぐ言葉の役割を考えている。</li> <li>発言</li> </ul>	<p>つまずき あいさつの言葉が省略形だということがわからない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>広辞苑や大辞泉を用いる。</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の経験をもとに、言葉のもつ力について自分なりに考えることが出来る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「言葉の橋」を読み、短い言葉に表された意味を考え、言葉のもつ力を考える。</li> <li>言葉によって心温まったり、励まされたり、悲しくなったりした経験を思い出す。</li> <li>「心に残る言葉」をスピーチでみんなに紹介するという見通しをもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉と心情の結びつきに気付いている。</li> <li>自分の心に残っている言葉をいろいろな場面を探そうとしている。</li> <li>ワークシートやノートや発言</li> </ul>	<p>つまずき 「心に残っている言葉」がなかなか思い浮かばない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ウェブマップ</li> <li>ワークシート</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>「心に残る言葉」は具体的にどんな言葉があるか、その言葉や言葉にまつわるエピソードなどを思い起こすことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の「心に残る言葉」を一つ決め、スピーチの材料となるものを集める。</li> <li>伝えたい自分の気持ちや考えを決める。(話す事柄の中心を決める。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>状況をくわしく思い出し、付箋メモを作っている。</li> <li>言葉から自分のどんな思いを伝えるか中心をはっきりと持っている。</li> <li>付箋や発言</li> </ul>	<p>つまずき 状況がうまく思い出せない。</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>モデルスピーチから、自分の伝えたいことが相手に分かるスピーチの組み立てパターンが分かり、集めたスピーチ材料の取捨選択をしながら、自分の伝えたい内容に合う組み立てをすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モデルスピーチを聞き、自分の意図が伝わりやすい話の組み立てをつかむ。</li> <li>自分の集めた材料の取捨選択をしながら、スピーチの組み立てを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話の意図に適する材料の取捨選択をしている。</li> <li>自分の意図が伝わりやすい話の組み立てを意識して、自分の内容に合う組み立てを考えている。</li> <li>ワークシートやノートや発言</li> </ul>	<p>つまずき 組み立ての片の違いが何なのかよく分からない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>モデルスピーチのメモと番所への立ち戻りで、理解を促す。</li> </ul>

8 本 時	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の伝えたい思いが相手に分かるスピーチにするためには、自分が考えた組み立て方で本当に伝わるかどうか仲間にスピーチを聞いてもらうことを通して分かり、自分のスピーチの組み立てを決めることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>三つのモデルスピーチのパターンを確認する。</li> <li>グループ内でペアを組み、自分のスピーチを聞いてもらう。自分のスピーチでは何が言いたいことなのか聞き手に伝わったかどうかを確認する。(3回)</li> <li>考えタイムをとった後、今度はフリーで仲間に聞いてもらう。</li> <li>自分の組み立てを決定する。</li> <li>組み立てが適切であるか評価する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のスピーチの組み立てを確かめようと積極的に練習をしている。</li> <li>自分の伝えたい思いが相手に伝わるスピーチにするための効果的な組み立てを決めることができた。</li> </ul>	<p>つまずき スピーチができない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スピーチメモに立ち返らせ、それを手がかりにスピーチをさせる。</li> </ul>
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の意図が伝わるように、相手の意図を考えながら、聞いたり話したりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「心に残る言葉」発表会を行い、聞いて考えたことをもとに、言葉を使う上で大切にしたいことを短くまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手に分かりやすく話している。</li> <li>意図を考えながら聞いている。</li> <li>感想</li> </ul>	<p>つまずき はっきり話すことができない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>順番を後にし、練習を積みせる。</li> </ul>

## 7、本時のねらい

自分の伝えたい思いが相手に分かるスピーチにするためには、自分が考えた組み立て方で本当に伝わるかどうか仲間にスピーチを聞いてもらうことを通して分かり、自分のスピーチの組み立てを決めることができる。

## 8、本時の評価規準

自分のスピーチの組み立てを確かめようと積極的に練習をしている。

自分の伝えたい思いが相手に伝わるスピーチにするための効果的な組み立てを工夫して決めることができる。(効果的な組み立てとは、自分のスピーチの中で最も大事だと思っていることが伝わる組み立てである。)

9、本時の展開

	主な学習活動	指導・援助	留意点
導入・課題化	<p>○前時を振り返り、スピーチには三つのパターンがあったことを確認する。 基本型：言葉そのものにポイントがある。 ドラマティック型：体験にポイントがある。 インパクト型：思いにポイントがある。</p> <p>考えた組み立てで、自分の言いたいことが相手に伝わっているかどうか確かめるにはどうしたらよいか考える。</p> <p>○今日の課題を確認する。</p>	<p>三つのパターンの違いが分からない。 パターンの特徴を書いた掲示物に注目させる。 色分けを手がかりにさせる。</p>	<p>・三つのスピーチパターンとその特徴を示した掲示物を用意する。</p>
課題追求	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>自分のいちばん伝えたいことが聞き手に伝わるスピーチの組み立てを決めよう。</p> </div> <p>○学習の仕方を説明する。 ・自分が前時に決めたパターンのスピーチを仲間に聞いてもらい、自分が一番伝えたいことは何だと思ったかを尋ねる。</p> <p>交流：グループ内での交流 ・グループ内で一人ずつスピーチメモを基にしてスピーチをしていく。 ・聞き手は、話し手のスピーチの中で、何が一番伝えたいことであったのかを聞き取り、話し手に伝える。(正誤に関わらず、聞き手への伝わり方として重視する。)</p> <p>考えタイム ・仲間の受け答えを参考にして、自分のスピーチの組み立てがこれでよいのかを考える。 ・もっと伝わる方法はないか組み立て方を工夫する。</p> <p>交流：フリーで相手を見つけ交流する。 交流と同じ内容で行う。</p> <p>決定タイム ・自分の伝えたいことがより伝わるためには、どのような組み立てにするとよいのかを再度工夫して決める。</p> <p>自分が決めたモデルパターンとそのパターンにした理由を発表する。</p>	<p>どんな学習をするのか分からない。 個別に詳しく説明する。</p> <p>スピーチメモを基にスピーチすることができない。 予想される 男・男・男には机間指導で援助していく。援助の方法は「先生に話してごらん。」「どんなこと話したかった？」などの声かけをしたりスピーチメモをもう一度読ませたりする。</p> <p>どのパターンが効果的な組み立てなのかが分からない。 いちばん伝えたいことは何なのかを話させたり、付箋に指を指させたりして意識させる。</p> <p>自分のスピーチのパターンを決められない。 いちばん伝えたいことを確認する。</p> <p>どうしてそのパターンがいいと思ったのか理由づけができない いちばん伝えたいことは何だったのかに立ち返らせる。</p> <p>・学習シートやノート態度</p>	<p>・今日の学習では、聞き手が重要であることに気づかせスピーチの中で話し手にとって一番伝えたいと思っていることが何なのかを考えながら聞くことを確認しておく。</p> <p>・付箋を動かしながら考えさせる。</p> <p>・練習中によい姿を見つけてほめ、価値付けておく。よい姿とは、意欲的に練習する姿や、仲間のアドバイスを真剣に聞いて、組み立てづくりに役立てようとしている姿である。</p> <p>・個人の伸びを認めて励まし、自信を持たせる。</p>
評価	<p>本時の振り返りをする。 ・組み立てを変えたら、自分の言いたいことが相手に伝わってよかった。 ・組み立てを変えることで、相手への伝わり方が違うことが分かってよかった。</p>		